

牛久二中だより

牛久市立牛久第二中学校
平成27年7月17日発行
学校通信7月号②[文責櫻井]

二中の「学び合い」が目指すもの

7月6日(月)に、麻布教育研究所所長 村瀬公胤先生を講師にお招きし、第4回校内授業研修会を行いました。4校時に1年生の英語、2年生の音楽、3年生の理科の授業を公開し、5校時は2年生の数学の授業を職員全員と奥野小学校の校長先生を始め職員の先生方、更には、つくば市の高山中学校の校長先生・教頭先生、牛久市教育委員会から指導課長・指導主事の先生方に、ご覧いただき、研究協議会を行いました。

生徒の知的興味関心をひく課題提示の大切さ。相手(生徒)の状況や心(心理状態)を考えないと自分(教師)の話は聴いてもらえない。など授業をもとに話し合いが行われました。講師の先生から、二中の課題として「どうして、何で。」と聞ける生徒がまだまだ少ない。学力をつけていくためにも、どの科目でも聞ける生徒を育ててほしい。というご指導をいただきました。

学校便り6月号でも記載しましたように、二中の目指す「学び合い」は、授業を通して、固定化した人間関係を改善し、よりよい人間関係を構築する。(いじめや荒れの少ない学校をつくる)更に、生徒一人一人の学びに焦点を当てて授業を改善する。(質の高い課題提示やつながり、支え合いのある共同的な学びのできる授業)を目指しています。

奥野学園構想を検討中



昨年度から、奥野小学校と牛久第二中学校は、体験学習や合唱交流会などの児童生徒の交流活動の充実と教職員の研修を合同で行うなどして連携に力を入れてきました。

この度、牛久市や教育委員会のご協力を得ながら、奥野地区の教育の充実と活性化のため「奥野学園構想」を具現化することとなり小中学校を核に検討を重ねています。

「奥野学園構想」とは、奥野地区の教育施設(奥野さくらふれあい保育園、奥野小学校、牛久第二中学校、奥野生涯学習センター、奥野運動広場)が徒歩で移動できる距離に近接していることを生かし、保育園から生涯学習までを一貫して、世界に羽ばたく人材を育成するために充実した教育を行おうとするものです。その柱として、一つ目に保育園から英語教育・国際理解教育をスタートさせ、小・中学校で体験を通して英語力を育成し、生涯学習として英語の学習や国際理解教育の環境を整えていくこと。二つ目として奥野地区の豊かな自然や人的環境を生かした、持続可能な社会をつくるためのESD教育に力を入れ、牛久市の掲げるスローシティのまちづくりを推進する。この二つを柱に奥野地区の教育を充実・活性化するための具体的な施策を現在検討しています。小学校・中学校には学区の指定がありますが、奥野小と二中は学区を牛久市内に広げて、希望する児童生徒はバスで通学できる体制を取ってくれることになっています。児童生徒が増え充実した教育が実施できるよう、今後検討を重ねていきますので、保護者の皆様からのご意見等ありましたら、学校へお知らせください。

牛久第二中学校 Ⅸ 875-0055 (櫻井まで)

※ESD教育・・・Education for Sustainable Developmentの略「持続可能な開発のための教育」

<学校便りなどのお便りは、学校ホームページにも掲載されています。是非ご覧ください。>